

カヌー競技、奥田翔悟君 愛媛国体に出場！

医事課勤務の奥田翔悟君が、9月に愛媛県で開催される第72回国民体育大会カヌースラローム競技に出場します。カヌースラロームとは、流れのある河川のコースを1艇ずつスタートして、決められたゲートを通してながらタイムを競う種目です。コースは全長250m～400mあります。コース上には2本のポールでできたゲートが18～25個あり、通過する順番も決められています。このゲートには上流から下流に通過するダウンゲートと下流側から上流側に通過するアップゲートがあります。



ゲートのポールに体や船、パドルが接触すると2秒のペナルティタイムが追加されます。ゲートを通することができなかった場合には50秒のペナルティタイムが追加されてしまいます。スタートからゴールの所要タイムとペナルティタイムを足して最終的なタイムで勝敗が決まります。

奥田君は今年の4月、京都で行われた第41回関西スラローム選手権で優勝し、滋賀県での代表枠を獲得しました。そして7月9日に滋賀県で行われた第72回国民体育大会近畿ブロック大会で優勝し、愛媛国体への出場が決まりました。本大会は9月30日開会ですが、カヌー競技は会期前実施競技として9月9日から11日まで、競技会場を高知県本山町として行われます。皆さんの応援よろしくお願ひします。

奥田翔悟選手よりひと言 ～

自分の持っている最高のパフォーマンスを發揮し、入賞を目指します！！



回復期リハビリテーションに特化し 地域包括ケアシステムを 根底から支える！ その②

回復期リハビリテーション（以降「回リハ」）は、現在国を挙げて進める地域包括ケアシステムの中核となるべき病床です。リハビリテーション（以降「リハ」）は、理学療法士（PT）が行う理学療法がイメージさせる四肢の運動機能の回復に限定される印象を持たれる方が多いと思いますが、実際には多岐にわたり、身体または精神に障害のある患者に対し、主としてその応用動作能力または社会適応能力の回復を図るために作業療法士（OT）が施療するのが作業療法で、さらに言語聴覚士（ST）は、発声発語機能、言語機能、聴覚機能、高次脳機能、摂食・嚥下機能など、主としてコミュニケーション機能と摂食に障害のある患者に対して検査、訓練および助言、指導その他の援助などの専門的なかかわりによって、患者の機能の獲得や維持・向上を図り、ひいては生活の質（QOL）の向上を支援するものです。当院では、これらの施療を行うPT/OT/STの110名超が、日々、日祭日を問わず365日働いています。地域包括ケアシステムの目指す最終形は、在宅復帰しての寝たきりゼロです。家族に多大な負担を背負わせての在宅復帰では意味がありませんし、核家族が定着した現在では、悲惨な老々介護をさせないためにも介護の担い手は家庭には居ないと考えるのが妥当かもしれません。つまり、十分なADLを獲得しての在宅復帰は必須の要件です。あらゆる急性疾患では、安静臥床が必須の療養条件であり、それ自体はしかたがありませんが、高齢者では安静によるダメージが半端ではありません。そのダメージを修復するだけでなく、疾病以前の身体能力を超えるレベルを獲得して在宅復帰するに必要なのがリハなのです。リハの威力を知って在宅復帰すれば、より長く健康寿命を全うすることが明らかに可能であり、回リハは地域包括ケアシステムを具現化する最大の要素となることは間違いありません。（院長 高橋伯夫）